

吉川左紀子

論文

野口素子, 吉川左紀子「表情表出による情動調整が受け手の情動と対人印象判断に及ぼす影響—不一致表出に着目して—」『対人社会心理学研究』2010,10,147-154.

布井雅人, 中嶋智史, 吉川左紀子「近接する顔の魅力が対象の好意度を変化させる:魅力と表情の交互作用に関する検討」『電子情報通信学会技術研究報告』2010, HCS2010-39,7-10.

伊藤美加, 木原香代子, 吉川左紀子「未知顔の再認記憶に及ぼす表情の影響:喜び表情の怒り表情に対する優位性」『人間環境学研究』2010,8,115-121.

大藪博記, 森本裕子, 中嶋智史, 小宮あすか, 渡部幹, 吉川左紀子「表情と言語的情報が他者の信頼性判断に及ぼす影響」『社会心理学研究』(印刷中).

内田由紀子, 竹村幸祐, 吉川左紀子「農村社会における普及指導員のコーディネート機能」『社会技術研究論文集』(印刷中).

Sato, W., Kochiyama, T., & Yoshikawa, S., "The inversion effect for neutral and emotional facial expressions on amygdala activity," *Brain Research*, 2011,1378, 84-90.

Ozono, H., Watabe, M., & Yoshikawa, S., "Effects of Facial Expression and Gaze Direction on Approach-Avoidance Behavior," *Cognition and Emotion*, in press.

Miyamoto, Y., Yoshikawa, S., Kitayama, S., "Feature and configuration in face processing: Japanese are more configural than Americans," *Cognitive Science*, in press.

著書

吉川左紀子「感情」, 京都大学心理学連合編『心理学概論』ナカニシヤ出版 (印刷中).

学会発表, ワークショップ等

中嶋智史, 森本裕子, 吉川左紀子「未知顔記憶における暗闇と不安の相互作用」日本認知心理学会第8回大会 (西南学院大学, 福岡市) 2010.5.29.

布井雅人, 吉川左紀子「他者の人数が選好形成に及ぼす影響」(同上).

布井雅人, 中嶋智史, 吉川左紀子「“限定”で商品は魅力的に見えるのか? ~限定ラベルと商品魅力に関する実証的検討~」『日本社会心理学会第51回大会発表論文集』692-693. (広島大学, 広島市) 2010.9.18.

吉川左紀子「仏像の顔を見る」日本心理学会第74回大会シンポジウム「顔知覚の解明への多面的アプローチ」(大阪大学, 豊中市) 2010.9.20.

森崎礼子, 吉川左紀子「表情判断時における無意図的な同調的顔面表出:既知・未知ペアの比較」『日本心理学会第74回大会発表論文集』653. (大阪大学, 豊中市) 2010.9.21.

中嶋智史, 吉川左紀子「援助動機に及ぼす相貌印象の効果」『日本心理学会第74回大会発表論文集』648. (同上).

嶺本和紗, 中嶋智史, 吉川左紀子「恐怖・悲しみ表情の強度と援助動機・援助の必要性判断」『日本心理学会第74回大会発表論文集』985. (大阪大学, 豊中市) 2010.9.22.

長岡千賀, 桑原知子, 吉川左紀子, 小森政嗣, 渡部幹「心理面接における話者理解に関する実証的検討(一)一話し手の視線時間を指標として—」『日本心理学会第74回大会発表論文集』712. (同上).

吉川左紀子, 日本心理学会第74回大会ワークショップ「認知的メタプロセスの進化と発達」指定討論. (同上).

講演

吉川左紀子「表情と対話:コミュニケーションの認知科学」第110回かんかん会(クラブ関西, 大阪市) 2010.4.19.

吉川左紀子「表情を科学する:心理学のこころみ」札幌東高等学校 MotiTime 講演会(札幌東高等学校, 札幌市) 2010.8.31.

吉川左紀子「対話の認知科学:こころの未来研究センターのこころみ」京都大学地域講演会(北洋銀行, 札幌市) 2010.8.31.

吉川左紀子「顔の記憶・顔の認識:認知科学のアプローチ」第17回New Horizon for Neurosciences. (東京商工会議所, 東京都) 2010.12.4.

吉川左紀子「ブータン訪問で考えたこと」第10回自然学セミナー(京都大学吉田泉殿, 京都市) 2011.1.16.

吉川左紀子「こころの未来研究センター:『こころ』の多面性に迫る・『こころの知』を社会と結ぶ」京都大学心の先端研究ユニット設置記念シンポジウム(京都大学稲盛財団記念館, 京都市) 2011.2.19.

船橋新太郎

論文

Ichihara-Takeda, S., Takeda, K., & Funahashi, S., "Reward acts as a signal to control delay-period activity in delayed-response tasks," *NeuroReport*, 2010, 21, 367-370.

Funahashi, S., "Metacognition: a new method to study the nature of the mind," *Bulletin of the Nanzan Institute for Religion and Culture*, 2010, 34, 36-40.

著書

船橋新太郎「刺激的世界—注意欠陥/多動性障害と前頭葉機能—」, 岩田誠, 河村満編『発達と脳——コミュニケーション・スキルの獲得過程』医学書院, 2010年, 167-182頁.

船橋新太郎「ワーキングメモリの心理・生理・イメージング」, 乾敏郎, 吉川左紀子編『よくわかる認知科学』ミネルヴァ書房, 2010年, 66-67頁.

船橋新太郎「脳の構造」, 子安増生他編『心理学概論』ナカニシヤ出版(印刷中).

船橋新太郎編『依存学ことはじめ』晃洋書房 (印刷中).

学会発表

Tanaka, A. & Funahashi, S. "Memory-related activity of prefrontal neurons and metacognitive behavior in the rhesus monkey." Symposium on "Self-Reflective Cognition" at 15th Biennial Meeting of International Society for Comparative Psychology. (淡路夢舞台国際会議場, 淡路市). 2010.5.19.

竹田里江, 池田望, 松山清治, 船橋新太郎「目的志向的行動・ワーキングメモリなど前頭連合野機能に注目したリハビリテーションシステムの開発」第44回日本作業療法学会(仙台国際センター, 仙台市) 2010.6.12.

Odagiri, M., Ueda, K., Murai, T., Ohigashi, Y., & Funahashi, S. "Visual search strategy in a patient with naturalistic action impairment—the analysis of fixation patterns in commission errors—." 2010 Mid-Year Meeting of International Neuropsychological Society. Krakow. 2010.6.30.

Andreau, J.M. & Funahashi, S. "Primate prefrontal neurons encode associative information of paired visual stimuli: a neurophysiological study." 7th FENS Forum of European Neuroscience. RAI Convention Center, Amsterdam. 2010.7.5.

Takebayashi, M. & Funahashi, S. "Activities of primate orbitofrontal neurons encode preference of visual stimuli." 第33回日本神経科学大会(神戸コンベンションセンター, 神戸市) 2010.9.2.

Mochizuki, K. & Funahashi, S. "Behavioural analysis of decision process in the self-selection oculomotor delayed response task." 第33回日本神経科学大会(神戸コンベンションセンター, 神戸市) 2010.9.3.

Watanabe, K. & Funahashi, S. "Focal attention modulates the spatial tuning of visually responsive neurons in the primate lateral prefrontal cortex." 第33回日本神経科学大会(神戸コンベンションセンター, 神戸市) 2010.9.3.

Watanabe, K. & Funahashi, S. "Voluntary attention induces spatial filtering of visual information in the primate lateral prefrontal cortex." 40th Annual Meeting of Society for Neuroscience. San Diego Convention Center, San Diego. 2010.11.14.

Takebayashi, M. & Funahashi, S. "Primate orbitofrontal neurons represent a degree of liking of visual stimuli." 40th Annual Meeting of Society for Neuroscience. San Diego Convention Center, San Diego.

2010.11.14.

講演

船橋新太郎「前頭連合野の働きを通して、人のこころを理解する」世界脳週間2010京都講演会（京都市立堀川高校，京都市）2010.4.24.

Funahashi, S. “Prefrontal cortex and executive control.” Neuroscience Seminar. Laboratory of Neurophysics and Physiology, University of Paris V, Paris. 2010.7.21.

Funahashi, S. “Prefrontal cortex and metacognition.” Cognitive Neuroscience Seminar. Picower Institute for Learning and Memory, MIT, Boston. 2010.8.9.

Funahashi, S. “Prefrontal cortex and metacognition.” Neurobiology Seminar (Department of Neurobiology, Yale University School of Medicine, New Haven) 2010.8.11.

船橋新太郎「思考・判断に不可欠なワーキングメモリと前頭葉機能」応用脳科学アカデミー（エッサム本社ビル内こだまホール，東京）2010.12.1.

Funahashi, S. “Prefrontal cortex and metacognition.” Cognitive Neuroscience Seminar. Ajou University School of Medicine, Seoul. 2010.12.9.

Funahashi, S. “Prefrontal contribution to the decision-making in the free-choice condition.” 13th Anniversary of Korean Society for Brain and Neural Science Meeting. Konkuk University, Seoul. 2010.12.10.

カール・ベッカー

論文

井藤美由紀，カール・ベッカー「末期がん患者とその家族は、どのような対応を望んでいたのか」『がん患者ケア』3（4）2010，9-18.

Hiyoshi K., Becker C.B., Kinoshita A., “Patients’ BPSD related to burden of family caregivers in Japan.” Proceedings, 25th International Conference of Alzheimers Disease International, 2011, in press.

カール・ベッカー「正常と異常，生と死の境界線を考える」『精神医学史研究』14巻2号，69-70.

著書

カール・ベッカー「アメリカの死生観教育～その歴史と意義」、『死生学とは何か』の韓国語訳，Seoul, Hanul Publishing Company, 2010.4.

Carl Becker, “Economy and the Environment: How to Get What We Want,” In: Sumi, A., Fukushi, K., & Hiramatsu, A. (Eds.), *Adaptation and Mitigation Strategies for Climate Change*, Springer, Tokyo/Berlin, 2010.5, 157-167.

カール・ベッカー「人間社会を持続可能にさせる倫理の役割」稲盛和夫編『地球文明の危機』東洋経済新報社，127-165;283-303, 2010.12.

カール・ベッカー「京大事件と学生の信頼」，NHK編『名門大学の「教室」』主婦と生活社，202-204, 2011.1.

近藤恵，カール・ベッカー「死の受容」，『心理学概論』ナカニシヤ出版，2011（印刷中）.

学会発表，ワークショップ等

Carl Becker, “Implicit Religion in Japan’s Daily Life,” Conference for the Study of Implicit Religion, Denton Hall, Ilkley (UK), 2010.5.8.

カール・ベッカー座長，福岡伸一出演「動的平衡」，第11回国際統合医学学会（品川区）2010.7.18.

カール・ベッカー基調講演「死と終末期にどう向き合うか—西欧と日本の比較」精神医学史学会年次大会（栃木県総合文化センター，宇都宮市）2010.10.30.

講演

カール・ベッカー「今を大切に生きる～医療の限界を超えて」島根大学医学部附属病院主催市民フォーラム（島根大学医学部病院医学教育センター，出雲市）2010.5.30.

カール・ベッカー「医療が癒せない病」聖学院大学総合研究所スピリチュアルケア研究室講演会（新都心ビジネスプラザ，さいたま市）2010.6.11.

カール・ベッカー「思いやり感を育めるか」上越教育大学市民講座（上越市）2010.6.24.

カール・ベッカー「生き方を考える」一燈園市民講座（米原市）2010.7.11.
カール・ベッカー「心は元気か」京都教育研究会山城南ブロック研修会（関西光科学研究所，木津川市）2010.8.7.

カール・ベッカー「日本の伝統を考える」神戸市教育委員会，神戸市生涯学習支援センター（コムスタこうべ，神戸市）2010.10.8.

カール・ベッカー「生き方を考える」亀岡市教育委員会人権教育講座（亀岡市民ホール，岡山市）2010.10.19.

カール・ベッカー「燃え尽きをどう予防できるか」姫路聖マリア病院記念会（姫路市）2010.11.2.

カール・ベッカー「危機管理と日本の将来を考える」京都大学宇治キャンパス防災研究所（宇治市）2011.2.22.

新聞掲載，テレビ・ラジオ出演

「やりがいない人「燃え尽き」注意」『読売新聞』京都版2010年12月19日。
「臨死体験の謎を徹底解明」（テレビ出演）『不可思議探偵団』読売テレビ，2010年9月6日放送。

「現代人は伝統文化から何を学べるか」（ラジオ出演）NHK第二放送，2010年11月14日放送。

河合俊雄

論文

河合俊雄「『遠野物語』からみた意識のあり方について」『季刊東北学』2010，23，80-92.

河合俊雄「ユング派分析家の訓練」『精神療法』2010，36，13-17.

河合俊雄「村上春樹における解離と超越：第1回・ポストモダンの意識」『新潮』2010年10月号，200-211.

河合俊雄「村上春樹における解離と超越：第2回・聖なる愛と人間の愛」『新潮』2010年11月号，310-319.

河合俊雄「夢への内在的アプローチとその限界」『こころの科学』2010，154（11月号），2-9.

河合俊雄「村上春樹における解離と超越：第3回・存在の逆転」『新潮』2010年12月号，284-294.

河合俊雄「発達障害からみた箱庭療法：イメージ以前・以後・外」『箱庭療法学研究』2010，23巻1号，105-117.

河合俊雄「本坊論文についてのコメント」『甲南大学臨床心理研究』2011，19号，22-24.

河合俊雄「藤原論文に関するコメント」『上智大学臨床心理研究』2011，33号，34-36.

著書

Kawai, T. “Jungian psychology in Japan: Between mythological world and contemporary consciousness.” Stein, M. & Raya, A.J. (Eds.) *Cultures and Identities in Transition*. Routledge: London and New York. 2010. pp.199-208.

河合俊雄「はじめに：発達障害と心理療法」，河合俊雄編『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社，2010年，5-26頁．

河合俊雄「子どもの発達障害への心理療法的アプローチ：結合と分離」，河合俊雄編『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社，2010年，27-50頁．

河合俊雄「対人恐怖から発達障害まで：主体確立をめぐる」，河合俊雄編『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社，2010年，133-154頁．

河合俊雄編，河合隼雄『生きたことば，動くこころ～河合隼雄語録』岩波書店，2010年．

河合俊雄編著『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社，2010年．（翻訳）ユング，シャムダサーニ編，河合俊雄監訳『赤の書』創元社，2010年．

学会発表

河合俊雄，長谷川千紘，梅村高太郎，鍛冶まどか，谷垣紀子，田中美香，金山由美，桑原晴子，深尾篤嗣「甲状腺疾患患者の主体性について（1）—NEO-FFI・バウムテストから—」日本心理臨床学会第29回大会（東北大学，仙台市）2010.9.3.

長谷川千紘，河合俊雄，梅村高太郎，鍛冶まどか，谷垣紀子，田中美

香, 金山由美, 桑原晴子, 深尾篤嗣「甲状腺疾患患者の主体性について(2) —半構造化面接から—」(同上).

田中美香, 金山由美, 河合俊雄, 桑原晴子, 深尾篤嗣, 梅村高太郎, 長谷川千紘, 鍛冶まどか, 谷垣紀子, 窪田純久, 宮内昭「パセドウ病患者のホルモン値とバウムテストの関連性」第53回日本甲状腺学会(長崎ブリックホール, 長崎市) 2010.11.12.

Kawai, T. "Pseudo self consciousness and neurotic symptoms in the adolescent autistic spectrum disorders." In: Inter-School Forum on Child Analysis. Milan, 2010.11.19.

講演

河合俊雄「医療と心理療法の接点」第19回日本有病者歯科医療学会(神戸市勤労会館, 神戸市) 2010.4.24.

河合俊雄「自然の喪失と再発見: 曼荼羅と箱庭」鶴岡致道大学(鶴岡市) 2010.7.4.

河合俊雄「発達障害における偽の自意識と神経症症状について」学習院大学(豊島区) 2010.12.12.

河合俊雄「ユング心理学と現代社会」奈良大学(奈良市) 2011.2.24.

シンポジウム, 対談, 一般雑誌記事, インタビュー

河合俊雄, 長谷川祐子, 中沢新一「アール・イマキュレと芸術人類学」Art Anthropology 04, 2010, 15-24.

赤坂憲雄, 河合俊雄『「遠野物語」を貫く感情は瞬間の恐怖である』『Fole』2010年6月号, 34-38.

山極寿一, 河合俊雄, 宮野素子「暴力の由来」『ユング心理学研究3』2011, p41-56, 創元社.

Kawai, T. "The Red Book and pre-modern cultures: The dead and sacrifice." In: C.G. Jung's Red Book in Contexts. Museum Rietberg, Zurich. 2011.3.12.

河合俊雄「世界の物語と私の物語: 1Q84 BOOK3をめぐる」『新潮』2010年6月号, 208-211頁, 新潮社.

河合俊雄「1Q84における結合と超越」『小説トリッパー』2010年夏季号, 374-376頁, 朝日新聞出版.

河合俊雄「ユング『赤の書』の意味と時代性」『新潮』2010年7月号, 254-255頁, 新潮社.

河合俊雄「ユングの『赤の書』世界同時公刊(インタビュー)『読売新聞』2010年7月26日.

河合俊雄「半世紀経てユング『赤の書』理論を裏付ける日記刊行(インタビュー)『朝日新聞』2010年9月7日.

鎌田東二

論文

鎌田東二「京都と沖縄」『月刊京都』2010年4月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「京都と東京」『月刊京都』2010年5月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「京都と熊野」『月刊京都』2010年6月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「賀茂の霊性」『月刊京都』2010年7月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「大和国の祭りと細男と能」『観世』第77巻7号, 26~35頁, 2010年7月, 檜書店.

鎌田東二「1910年と柳田國男と『遠野物語』」『神奈川大学評論』第66号, 61~68頁, 2010年7月, 神奈川大学.

鎌田東二「京都と江戸」『月刊京都』2010年8月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「東京と京都の地と知」『月刊京都』2010年9月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「滝をめぐる身体技法と精神療法」『地球人第15号』62~67頁, 2010年9月, ビイグ・ネット・プレス.

鎌田東二「京都の森の今」『月刊京都』2010年10月号, 74~77頁, 白川書院.

鎌田東二「神と仏の日本文化史」『蓮華』第79号, 30~33頁, 2010年9月, 妙法院門跡.

鎌田東二「『異端の神々』とは何か」『歴史読本 特集 記紀神話に隠された異端の神々——よみがえる謎の秘神たち』5~10頁, 2010年10月, 新人物往来社.

鎌田東二「収奪文明から還流文明へ——久高島から世界を見るへ映画『久高オデッセイ』をめぐる」『比較文明』第26号, 152~156頁, 2010年11月, 比較文明学会.

鎌田東二「賀茂の霊性」『月刊京都』2010年11月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「水と日(火)の聖地としての賀茂の社と神山」『月刊京都』2010年12月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「神道の生死観へのいのち, 来るとき, 去るとき」『文明と哲学』第3号, 104~128頁, 2010年12月, 財団法人日独文化研究所.

鎌田東二「聖地にして政地沖ノ島」『月刊京都』2011年1月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「上御霊神社と物気色展」『月刊京都』2011年2月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「慈円の『愚管抄』と怨霊史観」『月刊京都』2011年3月号, 66~69頁, 白川書院.

鎌田東二「『このころの練り方』探究事始め~その一」『モノ学・感覚価値研究』第5号, 2~12頁, 2011年3月, 京都大学このころの未来研究センター.

鎌田東二「滝行~その日本的身体技法(ボディワーク)の形成と特色についての一考察」『モノ学・感覚価値研究』第5号, 64~73頁, 2011年3月, 京都大学このころの未来研究センター.

鎌田東二「聖なる場所の美といのち」『MIND-BODY SCIENCE』第21号, 6~10頁, 2011年3月, 人体科学会.

鎌田東二「文化のルーツを探る——木にまつわる信仰について」『縄文巨木シンポジウム—日本の樹木利用のルーツから京都の文化・芸術・産業の発展を展望する—論集』35~40頁, 2011年3月, 京都大学縄文巨木プロジェクト.

著書

鎌田東二編『平安京のコスモロジー』創元社, 2010年.

鎌田東二『霊性の文学 言霊の力』角川ソフィア文庫, 角川学芸出版, 2010年.

鎌田東二『霊性の文学 霊の人間』角川ソフィア文庫, 角川学芸出版, 2010年.

鎌田東二, 近藤高弘『火・水(KAMI)——新しい死生学への挑戦』晃洋書房, 2010年.

鎌田東二編『モノ学・感覚価値論』1~270頁, 晃洋書房, 2010年.

鎌田東二「モノ学から見たモノ・ケ・イロ(物気色)」(『物気色(モノケイロ)——物からモノへ』モノ学・感覚価値研究会アート分科会編)6~10頁, 美学出版社, 2010年.

鎌田東二「臨床の知と臨地の知」『臨床の知——臨床心理学と教育人間学からの問い』, 矢野智司, 桑原知子編, 224~228頁, 創元社, 2010年.

鎌田東二「聖地とは何か」NHKテレビテキスト『知楽遊学シリーズ NHK極める! 千住明の聖地学』10~17頁, 日本放送出版協会, 2011年2月.

鎌田東二, 一条真也『満月交感』上下, 水曜社, 2011年.

鎌田東二, 河合俊雄『京都における癒しの伝統とリソース研究プロジェクト報告書』京都大学このころの未来研究センター, 2011年3月.

学会発表

鎌田東二, 公開シンポジウム「21世紀における日本文明と芸術の意義」(パネリスト) 比較文明学会第28回大会(池坊短期大学, 京都市) 2010.11.27.

鎌田東二, シンポジウム「モノ学と芸術——21世紀の文明に向けて」(コーディネーター・司会) 比較文明学会第28回大会(池坊短期大学, 京都市) 2010.11.28.

講演

鎌田東二「このころの科学の時代と宮沢賢治」岩手大学開学記念講演会(岩手大学, 盛岡市) 2010.6.12.

鎌田東二「日本人のこのころの未来——パワースポットブームと聖地感覚という身体知」(愛知県自治研修所, 名古屋市) 2010.12.9.

鎌田東二「平安京のコスモロジー」京都アスニー(京都市生涯学習総合センター, 京都市) 2010.12.17.

鎌田東二「神様と出会えるパワースポット——『古事記』を学び, 神話を巡る」(岐阜市生涯学習センター, 岐阜市) 2011.1.15.

鎌田東二「『久高オデッセイ』と生態智の探究」九州大学リベラルアーツ講座(九州大学, 福岡市) 2011.2.26.

鎌田東二「宇宙と人のこのころ」『第4回宇宙総合学研究会ユニットシンポジウム 人類はなぜ宇宙へ行くのか~宇宙生存学における課題』京都大学宇宙総合学研究会ユニット(京都大学, 京都市) 2011.3.6.

対談, 新聞掲載, テレビ出演

松岡正剛, 鎌田東二「融通無碍の日本文明」(対談), 『Voice』9月号, 169~178頁, PHP研究所, 2010年8月.
鎌田東二, 町田宗鳳「本物のスピリチュアリティを求めて」『現代宗教2010』1~41頁, 国際宗教研究所編, 秋山書店, 2010年8月.
月本昭男, 鎌田東二「神と人間, 神話と宗教」(対談), 『図書』9月号, 2~9頁, 岩波書店, 2010年8月10日.
宮内勝典, 田口ランディ, 鎌田東二「アニミズムと文学」『詩歌句』第33号, 102~120頁, 北溟社, 2011年2月.
鎌田東二「ガラバゴスの卵 第貳 学」『読売新聞』2011年1月6日夕刊.
鎌田東二「時感雑感 パワースポットブームを考える①~④」『中外日報』, 中外日報社, 2011年2月8日, 15日, 22日, 3月8日.
鎌田東二「中沢新一・坂本龍一『縄文聖地巡礼』木楽社」(書評)『週刊読書人』2010年8月13日.
鎌田東二「島蘭進, 氣多雅子他編『宗教学事典』丸善」(書評)『週刊読書人』2011年1月8日.
鎌田東二「日本のイタリヤ, 熊野の聖性。その光と影を透視する!」『紀南新聞』2011年3月10日夕刊, 2011年3月11日朝刊.
鎌田東二「知りたがり! パワースポット特集」フジテレビ, 2011年1月5日放送.
鎌田東二「極める! 千住明の聖地学」NHK教育, 2011年1月31日放送.

内田由紀子

論文

Miyamoto, Y., Uchida, Y., & Ellsworth, P. C., "Culture and mixed emotions: Co-occurrence of positive and negative emotions in Japan and the U.S.," *Emotion*, 2010, 10, 404-415.
内田由紀子, 竹村幸祐, 吉川左紀子「平成21年度普及指導員の行動に関する調査研報告書」.
内田由紀子「社会心理学から見た普及活動」『技術と普及』2010, 6月号. 近藤恵, 平石界, 内田由紀子, 大石高典「若手研究者のウェルビーイングと対人関係」, 『京都大学文学研究科グローバルCOEプログラム親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点 ワーキングペーパー』2010年.
内田由紀子「日本文化と思いやりの諸相——比較文化研究から見えてくること」『科学』2011, Vol.81, No.1, pp 51-52, 岩波書店.
Uchida, Y., "A holistic view of happiness: Belief in the negative side of happiness is more prevalent in Japan than in the United States," *Psychologia*, 2011, Vol.53, No.4.
Norasakkunkit, V., Kitayama, S., & Uchida Y. "Social anxiety and holistic cognition: Self-focused social anxiety in the United States and Other-focused social anxiety in Japan," *Journal of Cross-Cultural Psychology*, in press.

著書

内田由紀子「北山忍の文化的自己観」, 梶田毅一, 溝上慎一編『自己の心理学を学ぶ人のために』世界思想社(印刷中).

学会発表

Norasakkunkit, V. & Uchida, Y. "Social psychological consequences of globalization in Japan: The NEET problem." XXth congruence of the International Association for Cross-Cultural Psychology. The University of Melbourne, Australia. 2010.7.8.
内田由紀子, Norasakkunkit, V. 「青年期の社会的適応: ひきこもり・ニートの文化心理学的検討」日本社会心理学会第51回大会(広島大学, 広島市) 2010.9.17.
荻原祐二, 内田由紀子, 宮本百合「日米の青年期における主観的幸福感: 自己価値と対人関係からの検討」日本社会心理学会第51回大会(広島大学, 広島市) 2010.9.18.
内田由紀子「日本におけるコミュニケーション」日本心理学会第74回大会ワークショップ「ことばと社会: 心理学的アプローチの可能性と問題点」(大阪大学, 豊中市) 2010.9.20.
荻原祐二, 内田由紀子「価値と対人関係が主観的幸福感に与える影響: 日米比較研究」第4回京都大学・慶應義塾大学グローバルCOE共催シンポジウム「トランスナショナルな心・人・社会」(京都大学, 京都市) 2011.1.9.
Uchida, Y. "Are Japanese relationships still interdependent? Social support and motivation across cultures." *Cultural Psychology*

Preconference, The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA. 2011.1.27.
Ogihara, Y., & Uchida, Y. "Effects of contingencies of self-worth on subjective well-being in Japan and the U.S." *Cultural Psychology* Preconference, The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA. 2011.1.27.
Eggen, A., Miyamoto, Y., & Uchida, Y. "Expressing versus Sensing through Non-Direct Communicative Means." *Cultural Psychology* Preconference, The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA. 2011.1.27.
Norasakkunkit, V., & Uchida, Y. "Shifting psychological tendencies with post-industrial anomie: Self, motivation, and the social pathology of marginalized Japanese." The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA. 2011.1.29.
Park, J., Haslam, N., Kashima, Y., Uchida, Y., & Norasakkunkit, V. "Close to you, close to human: Empathy reduces self-humanizing." The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA. 2011.1.29.

講演

内田由紀子「社会心理学から見た普及活動」岡山県普及指導活動高度化研修(岡山市) 2010.10.20.
内田由紀子「『やる気』はどこから生まれ、なぜ失われるのか? ~日本社会と心のゆくえ~」(主催: NPO法人高槻オレンジの会, 後援: 高槻市教育委員会) 2010.10.31.
内田由紀子「社会心理学から見た普及活動」山形県普及活動特別研修会(山形市) 2010.11.24.
内田由紀子「現代日本の若者における社会的適応感」京都大学こころの未来研究センター研究報告会2010(京都大学, 京都市) 2010.12.18.
内田由紀子「幸福感と対人関係の文化的基盤: 日米比較文化研究からの視点」第4回京都大学・慶應義塾大学グローバルCOE共催シンポジウム「トランスナショナルな心・人・社会」(京都大学, 京都市) 2011.1.9.

社会活動

内閣府 幸福度に関する研究会委員(内閣府, 東京都) 2010.12.22.

平石界

論文

平石界「利他行動の進化的理論について幾つかの補足—山本論文へのコメント—」『心理学評論』2011, 53(3), 437-440.
Oda, R., Niwa, A., Honma, A., and Hiraishi, K., "An eye-like painting enhances the expectation of a good reputation," *Evolution and Human Behavior*, 2011, published online.
Shikishima, C., Yamagata S., Hiraishi K., & Ando, J., "Development of a Simple Test of Syllogism Solving," *CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, 3, 145-150.
敷島千鶴, 平石界, 山形伸二, 安藤寿康「共感性形成要因の検討: 遺伝—環境交互作用モデルを用いて」『社会心理学研究』(印刷中).
中村敏健, 守谷順, 平石界, 長谷川寿一「ドットプローブ課題を用いたBIS/BAS尺度日本語版の構成概念妥当性の検討」『パーソナリティ研究』(印刷中).

著書

平石界「赤ちゃんポストの人間行動進化的意味」, 根ヶ山光一, 柏木恵子編著『子育ての進化と文化』, 有斐閣, 2010年, 71-72頁.
平石界「認知の個人差の進化心理学的意味」, 箱田裕司編著『現代の認知心理学第7巻: 認知の個人差』, 北大路書房, 2011年, 76-102頁.
平石界「生物, 進化的理論との関係で見た研究法」, 発達心理学会編『発達科学ハンドブック』, 新曜社, (印刷中).

学会発表, ワークショップ等

Hiraishi, K., Shikishima, C., Ando, J. "Heritability of cooperative behavior on a public goods game." *Behavior Genetics Association 40th Annual Concerence*, Seoul, South Korea. 2010.6.4.
Shikishima, C., Yamagata, S., Hiraishi, K., Sugimoto, Y., & Juko, A. "Genetic correlates of syllogism-solving ability." *Behavior Genetics Association 40th Annual Concerence*, Seoul, South Korea. 2010.6.4.

平石界「動きと進化」ワークショップ「Embodied Psychologyに向けて」日本心理学会第74回大会（大阪大学，豊中市）2010.9.23.
中村敏健，平石界，清成透子，長谷川壽一「向社会性とビッグファイブパーソナリティの関係」（同上）.
平石界「行動遺伝学が実験経済学と出会うとき GenoEconomicsの展開」日本行動計量学会第38回大会（埼玉大学，さいたま市）2010.9.25.
平石界「パーソナリティの個人差の進化を考える」準備委員会，国際交流委員会企画セミナー「遺伝から文化まで幅広くパーソナリティや適応を考える—Brent W. Roberts博士セミナー—」日本パーソナリティ心理学会第19回大会（慶應義塾大学，東京都港区）2010.10.10.
中村敏健，守谷順，平石界，長谷川壽一「ドットプローブ課題を用いたBIS/BAS尺度日本語版の構成概念妥当性の検討」日本パーソナリティ心理学会第19回大会（慶應義塾大学，東京都港区）2010.10.11.
平石界，敷島千鶴，安藤寿康「公共財ゲームにおける個人差の遺伝環境分析」日本人間行動進化学会第3回大会（神戸大学，神戸市）2010.12.5.
小田亮，丹羽雄輝，本間淳，平石界「目の絵の存在は互惠性への期待を喚起させる」（同上）.
中村敏健，平石界，齋藤慈子，長谷川壽一「ヒトの社会的知性の複数の側面；マキャベリの知性と“心の理論”についての検討」日本人間行動進化学会第3回大会（神戸大学，神戸市）2010.12.4.
丹羽雄輝，平石界，小田亮「鏡は人を利他的にするのか？」（同上）.
南晴菜，平石界，小田亮「利他主義者はどこまで覚えられているか？」（同上）.
大めぐみ，五百部裕，清成透子，武田美亜，平石界，小田亮「新しい利他主義尺度の開発」（同上）.
小島由起子，中村敏健，平石界，小田亮「モテない男性は利他的か？」（同上）.
平石界「インセスタブーの進化心理学：Westermarck効果とその先」ホミニゼーション研究会（京都大学霊長類研究所，犬山市）2011.3.4.

森崎礼子

学会発表，ワークショップ等

森崎礼子，吉川左紀子「表情判断時における無意図的な同調的顔面表出—既知・未知ペアの比較—」日本心理学会第74回大会（大阪大学，豊中市）2010.9.21.
藤田和生，栗山香織，森崎礼子，高岡祥子，堀裕亮，前田朋美「イヌは足音から飼い主がわかるか」日本動物心理学会第70回大会（帝京大学，八王子市）2010.8.29.
森崎礼子，藤田和生「ストレンジシチュエーションテストによるイヌの性格の分類」（同上）.

大石高典

論文

大石高典「身をほぐし，心をほぐす技術と平和力——出産・武術・狩猟を貫く『生存のためのワザ』を構想する」『モノ学・感覚価値研究』第5号，2011年3月，京都大学こころの未来研究センター.
大石高典「民族誌の方法としてのホームビデオ」，新井一寛，岩谷彩子，葛西賢太編『映像と宗教の最前線』せりか書房（印刷中）.

報告書

大石高典「コンゴ共和国北部における生態人類学的調査の可能性：2009年9-10月の広域調査報告」，竹内潔編『アフリカ熱帯森林帯における先住民社会の周縁化に関する比較研究』（文部科学省科学研究費補助金・海外学術調査2006年度採択，No. 18251014）（印刷中）.
有田（近藤）恵，平石界，内田由紀子，大石高典「若手研究者のウェルビーイングと対人関係」京都大学グローバルCOEプログラム『親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点』平成21年度成果報告書（ワーキングペーパー）（印刷中）.
大石高典「森に埋め込まれた狩猟採集民＝焼畑農耕民の空間利用変遷と民族間関係Ⅱ～アフリカ熱帯林におけるヒューマン・インパクトと民族考古学～」『高梨学術奨励基金年報』平成21年度，2010，pp.229-232.
大石高典「換金作物栽培と森の生活の両立は可能か—甘いチョコレトがもたらす不平等—」実践型地域研究ニューズレター『ざいちのち』2010，No.19，p.4.

OISHI, T. “A Boom of cash crop cultivation and the change in inter- and intra- ethnic relationships in a multi-ethnic community of South East Cameroon.” In: Interim Research Report 2009-2010 for Ministry of Scientific Research and Innovation: A Comparative Study of Local Systems in Cameroon: Ecology, Culture, and Society. May 2010, Kyoto University, Japan. 2010, pp.61-72.

学会発表，国際会議における発表等

OISHI T. “Cacao Beans, Land, and Forest: How Baka Hunter-Gatherers are adapting egalitarianism to market economics in the multi-ethnic context of South East Cameroon.” West Africa Seminar, Department of Anthropology, University College of London, UK. Decembre 17th, 2010, London. (Oral Presentation).
OISHI T. “Vivre de la Forêt et vivre du Cacao: une comparaison des stratégies d'adaptation des Bakwele et des Baka et leurs interactions au Sud-Est Cameroun.” Conference au Laboratoire d'Éco-anthropologie et Ethnobiologie (UMR 7206), Muséum National d'Histoire Naturelle de Paris, Paris, France. le mardi 7 Decembre 2010. (Exposé Oral).
舟川晋也，杉原創，大石高典，荒木茂「カメルーン，アダマウ州の土壌と農牧業に関する広域調査報告」日本熱帯農業学会第108回講演会（沖縄コンベンションセンター，宜野湾市），2010.10（口頭発表）.
OISHI T. “Cash crop cultivation and Hunter-Gatherer society, and their relationships with Farmers: A case study of the Baka Pygmies and the Bakwele of South East Cameroon.” Accepted presentation at International Conference on Congo Basin hunter-gatherers, the September 24th, 2010, CNRS Montpellier, France. (Oral Presentation).
FONGNZOSSIE E., OISHI T., NGUENANG G. M. and NKONGMENECK B. A. “Baka Hunter-Gatherer Perceptions of and Impacts on Mixed Evergreen and Semi-Deciduous Forests in East Cameroon.” Accepted presentation at International Conference on Congo Basin hunter-gatherers, the September 23th, 2010, CNRS Montpellier, France. (Oral Presentation).

大石高典「感情の文化間比較への民族人類学・民族生物学的アプローチ：カメルーン東南部の焼畑農耕民社会と狩猟採集民社会の比較から」慶應義塾大学「相互的感情身体知の文化医療人類学・人間科学研究会」・京都大学こころの未来研究センター連携プロジェクト「負の感情研究—怨霊から嫉妬まで—」合同ワークショップ『『負の感情』とはなにか？：『怒り』『悲哀』『底つき感』の通文化比較とその手法としての映像』（京都大学稲盛財団記念館，京都市），2010.8.15（口頭発表）.

大石高典「換金作物栽培とアフリカ狩猟採集社会の可塑性・および狩猟採集民＝農耕民関係の変容：カメルーン東部州におけるバカ・ピグミーとバクウェレの事例から」第146回東南アジアの自然と農業研究会（京都大学稲盛財団記念館，京都市），2010.6.11（口頭発表）.

OISHI T. “Collaborative research on human ecology in South East Cameroon: Toward Longterm Anthropological Research(LTAR) and spontaneous development of forest populations.” JSPS Asian and African Science Platform Program Seminar: Collaboration for conservation and sustainable utilization of wildlife resources, Wildlife Research Center & Laboratory of Human Evolution, June 8-9th, 2010, Kyoto University, Kyoto, Japan. (Oral Presentation).

一般雑誌等

川那部浩哉，影山貴子，久松ユリ，大月健，大石高典「座談会：博物館と図書室・そして植物園」『ゆくのき通信』第8号，京大植物園を考える会，2011年.
大石高典「市民の植物学園」『市民研ニュース』NPO法人市民環境研究所，2011年.
大石高典「生態植物園と日本画家・三橋節子」『唯一者』11号，2010年，2-7頁。雑誌『唯一者』発行所。
大石高典「地域の『発展』とはなんだろう」沖縄大学地域研究所フォーラム第8号，2010年.

近藤（有田）恵

論文

近藤（有田）恵「実践を支える研究：関係発達論とエピソード記述が持つ

意味』『育療』201148 (印刷中)。

学会発表, ワークショップ等

Megumi Kondo-Arita “Comment for Play and Empowerment- The Role of Alternative Spaces in Social Movements.” Workshop on Psychological and Sociological Perspectives on Japanese Youth Issues: Views from Foreign Researchers in Japan, Kyoto University, Kyoto, Japan.2010.6.12.

講演

近藤恵 「親子関係とひきこもり—発達心理学の視点から—」(主催:NPO 法人高槻オレンジの会) 2010.10.31.

新聞掲載

「仕事にやりがいがない人・燃え尽き症候群にご用心」『読売新聞』2010年12月19日。

畑中千紘

論文

畑中千紘 「語りの『聴き方』にみる聴き手の関与」『質的心理学研究』第9号, 2010, 133-152.

高嶋雄介, 畑中千紘, 井上嘉寿, 古川裕之 「空間との関わりに表れる日本人のこころ—トイ空間の誕生と変遷—」京都大学カウンセリングセンター紀要39, 2010, 27-47.

畑中千紘 「話の聴き方からみた軽度発達障害—対話的心理療法の可能性—」京都大学大学院教育学研究科博士学位論文. 2010.7.

著書

畑中千紘 「大人の発達障害事例の検討—『影』に隠された『空白』の世界」, 河合俊雄編『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社, 2010年, 105-131頁.

畑中千紘 「ドラえもんからみる発達障害—主体なき世界に生まれる主体」, 河合俊雄編『発達障害への心理療法的アプローチ』創元社, 2010年, 155-179頁.

畑中千紘 『話の聴き方からみた軽度発達障害』創元社, 2011年.

学会発表

畑中千紘 「ロールシャッハ反応からみた軽度発達障害—その全般的特徴と典型的特性の検討—」日本ユング心理学会第1回大会(文京学院大学, 文京区) 2010.6.

畑中千紘 「解離性障害を呈する高校生女子との面接」日本箱庭療法学会全国研修会(上智大学, 千代田区) 2010.7.

桑原知子, 大山泰宏, 畑中千紘 「心理療法で何がおこっているのか(2)—臨床家の意識と認知過程への着目—」日本心理臨床学会第29回大会(東北大学, 仙台市) 2010.9.

Hatanaka, C. “Dissociated Childhood as a Fake Product: on the way to self-reflective subject.” (3° ISFCA International Congress: The Memoir of the Future and the Future in Memory - Puberty and Early Adolescence), Milan, 2010.11.18-20.

山本哲也

論文

山本哲也, 山本洋紀, 眞野博彰, 梅田雅宏, 田中忠蔵, 河野憲二 「追跡眼球運動関連機能におけるヒトMT/MST野の相違」『電子情報通信学会技術研究報告』2010, NC110(149), 13-18. (2010年IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter, Young Researcher Award受賞).

学会発表, ワークショップ等

山本哲也, 山本洋紀, 眞野博彰, 梅田雅宏, 田中忠蔵, 河野憲二 「位相符号化法と追跡眼球運動を用いたヒトMT/MST野のレチノトピー構造の測定再現性及び機能的裏付け」日本視覚学会2010年夏季大会(東京工業大学すすかけ台キャンパス, 横浜市) 2010.8.2.

山本哲也, 山本洋紀, 眞野博彰, 梅田雅宏, 田中忠蔵, 齋木潤 「単眼性奥行き手掛り統合におけるヒトMT/MST野の相違」日本視覚学会2011年冬季大会(工学院大学新宿キャンパス, 東京) 2011.1.19.

Yamamoto, T. “Retinotopic and functional organizations of human motion-sensitive areas MT and MST.” International Workshop on Visual Motion Perception and its Brain Mechanism, Kyoto. 2011.3.8.

上田祥行

学会発表, ワークショップ等

Ueda, Y., & Saiki, J. “Eye movement transition depending on tasks and stored information in 3-D object recognition.” Vision Sciences Society 10th Annual Meeting, Naples, USA. 2010.5.10.

Ueda, Y. “Plesant happy faces facilitate visual search processes.” Workshop on Cognition and Affective Science. 2010.8.5.

上田祥行, 齋木潤 「視点依存・非依存な三次元物体の学習における眼球運動の変化」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 豊中市) 2010.9.22.

上田祥行, 吉川左紀子 「周辺視野に呈示された快刺激による視覚探索プロセスの促進」日本基礎心理学会第29回大会(関西学院大学, 西宮市) 2010.11.27.

Chen, L., Ueda, Y., Saiki, J., Cramer, E., Dusko, M., & Rensink, R.A. “Cultural Effect on Attention Control Style in Visual Search Tasks.” International Workshop for Young Researchers “Knowing Self, Knowing Others,” Kyoto, Japan. 2011.1.29.

陳蕾, 上田祥行, 齋木潤, Cramer, E., Dusko, M., Rensink, R.A. 「視覚探索課題時の注意の制御スタイルにおける文化の影響」Technical Report on Attention and Cognition. 2011.3.14.

上田祥行, 吉川左紀子 「課題非関連な快刺激による注意の解放の促進」(同上).

竹村幸祐

論文

Takemura, K., Yuki, M., & Ohtsubo, Y. “Attending inside or outside: A Japanese-US comparison of spontaneous memory of group information.” Asian Journal of Social Psychology, 2010, 13, 303-307.

学会発表, ワークショップ等

竹村幸祐 「社会構造に依存する独自性欲求の適応価: 比較文化データによる検証」日本社会心理学会第51回大会(広島大学, 東広島市) 2010.9.17.

竹村幸祐 「集団行動原理の文化差とその社会生態学的要因の解明」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 豊中市) 2010.9.21.

Takemura, K. “Being different leads to being connected: On the adaptive function of uniqueness in ‘open’ societies.” Poster session presented at the 12th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology, San Antonio, TX.2011, January.

講演

内田由紀子, 竹村幸祐 「社会心理学から見た普及」普及活動特別研修会(山形県村山総合支庁農業技術普及課, 山形県寒河江市) 2010.11.24.

長岡千賀

論文

小森政嗣, 長岡千賀 「心理臨床対話におけるクライアントとカウンセラーの身体動作の関係: 映解析による予備的検討」『認知心理学研究』2010, 8(1), 1-9.

長岡千賀, 小森政嗣 「心理臨床対話のマクロ的時間構造(2)」『電子情報通信学会技術研究報告』2010, HCS110(33), 65-68.

著書

長岡千賀 「会話の『間』」, 日本認知心理学会監修, 三浦佳世編『現代の認知心理学』第1巻 知覚と感性, 北大路書房, 2010年, 199-202頁.

学会発表, ワークショップ等

長岡千賀, 桑原知子, 吉川左紀子, 小森政嗣, 渡部幹 「心理面接における話者理解に関する実証的検討(6)—話し手の視線時間を指標として—」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 豊中市) 2010.9.22.

Nagaoka, C., & Komori, M. “Quantitative analysis of client-counselor interaction in psychotherapeutic counseling.” 27th International Congress of Applied Psychology(ICAP2010), Brief oral presentation, Melbourne, Australia. 2010.7.13.

長岡千賀 「カウンセラーの視線に関する予備的検討, カウンセラーのフォローアップ発話」ワークショップ「カウンセリング対話を科学する(4)—学派による相違と共通性—」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 豊中市) 2010.9.21.